神奈川県

KANAGAWA

私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。
SDGs 未来都市　神奈川県

神奈川
ME-BYO リビングラボ
レポート

INDEX

P01-03　神奈川 ME-BYO リビングラボとは

P04-05　ME-BYO リビングラボ 特別鼎談

P06-07　実証例 1「アルケア株式会社」

P08-09　実証例 2「RIZAP 株式会社」
（提案者：湘南ヘルスイノベーションパーク）

P10-11　実証例 3「エーテンラボ株式会社」

P12-13　実証例 4「カゴメ株式会社」

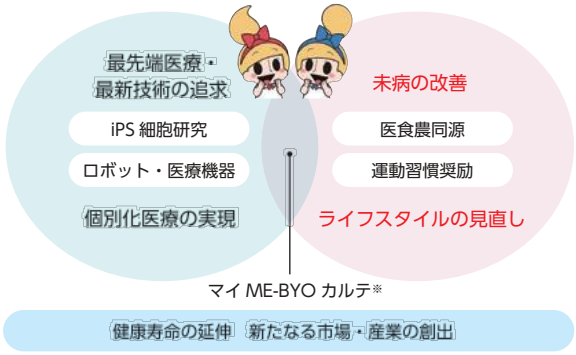
P14-15　実証例 5「株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団」

P16-17　事業者からの声

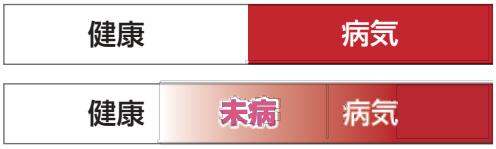
神奈川 ME-BYO リビングラボとは

神奈川 ME-BYO リビングラボは、神奈川県が推進するヘルスケア・ニューフロンティア政策※で、超高齢社会を乗り越える次世代ヘルスケア社会システムの創出を目指して企画された事業です。

※ヘルスケア・ニューフロンティア政策：超高齢社会の到来という急激な社会変化に対して、「未病の改善」と「最先端医療・最新技術の追求」という２つのアプローチによって、健康寿命の延伸を目指すとともに、未病産業、最先端医療産業など新しい市場・産業の創出・拡大に取り組む神奈川県の政策です。



What's "ME-BYO（未病）"？

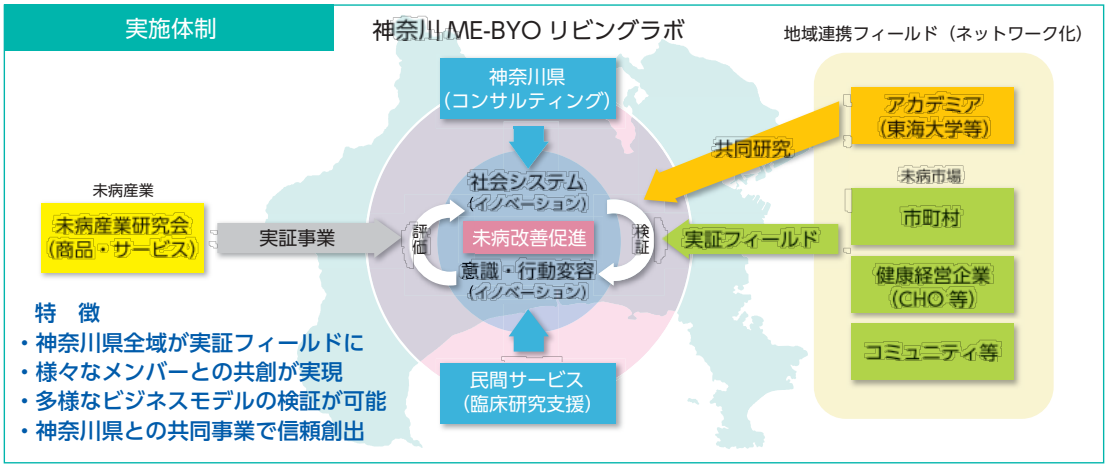


・「未病」とは、心身の状態を健康と病気をの2つの明確に分けられる概念として捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものと捉えています。
・「未病の改善」とは、心身の状態の変化の中で、特定の疾患の予防にとどまらず、心身をより健康な状態に近づけていくことです。

※「マイME-BYOカルテ」とは、お薬情報や健康情報等をパソコンやスマートフォンを通じて閲覧できるアプリケーションのことです。

未病を改善する技術、商品・サービス（以下、「未病関連商品・サービス」という）を社会システムに実装させることで新市場創出を目指す企業等の実証事業を支援します。
具体的には、市町村等が地域住民に提供する健康・医療・介護サービスや、企業等の健康経営、他者と交流し社会とつながるコミュニティ活動等に内在する社会課題（不安・不満・不便）を解決することで社会システムを変化（＝イノベーション：個別化・効率化など）させ、そこに生まれる新たな価値（つながり・自己効力感など）によって個人の意識・行動変容を起こし未病改善を促進するビジネスモデルを創出します。

●未病関連商品・サービスを社会システムに実装するためのイノベーションプラットフォーム



スキーム

神奈川県は、未病産業研究会の会員企業等から未病関連商品・サービスを活用した実証事業の提案を募り、事前面談等によるコンサルティングの実施や、採択が見込まれる事業と実証フィールド・アカデミアとのマッチング、参加者のリクルートなどの支援を行います。
また、実証事業の結果を受けて、継続的な生活習慣改善やメカニズム等の成果（短期のアウトカム）を可視化するための評価（信頼の創出）を実施します。

主な要件

◆対象事業

次の全ての要件を満たす事業

（1）県民の意識・行動変容につながる未病関連商品・サービス※の機能・効果等を県内の実証フィールドで検証する実証事業であること

重点分野	①意識・行動変容　②生活習慣　③生活機能　④認知機能　⑤メンタルヘルス・ストレス

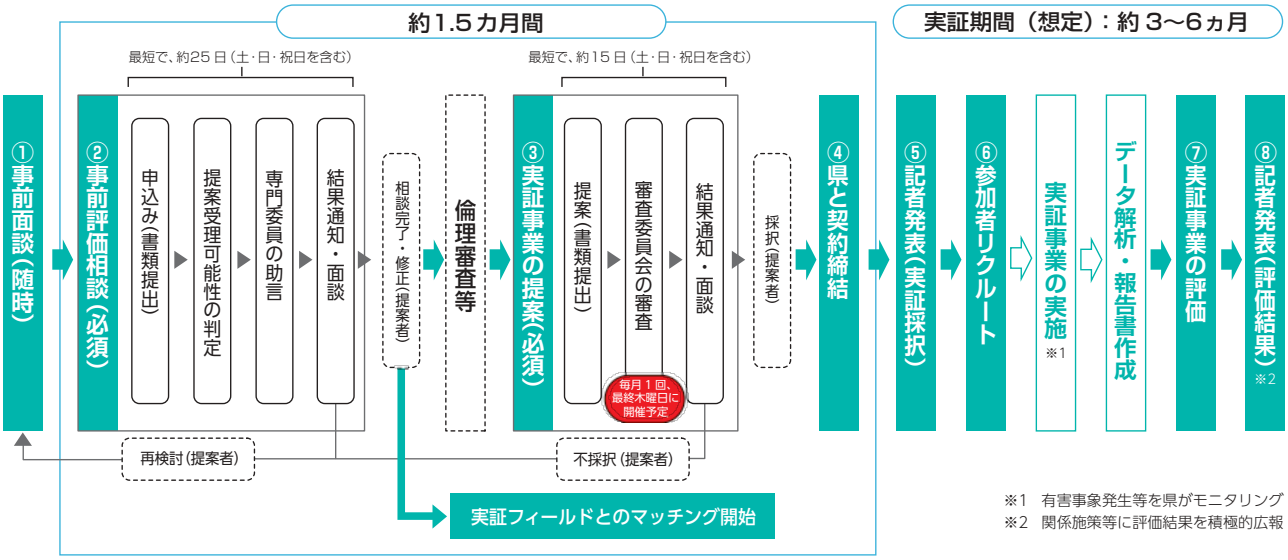
※　ICT や金融などの分野を含めた、広く未病の見える化や改善に資する技術、商品・サービス。なお、医薬品、医療機器及び再生医療等製品並びに体内に摂取する食品や侵襲性の高い商品・サービスは除く。

（2）倫理審査等の必要な手続きを完了した実証事業であること（完了予定を含む）等

◆応募資格

未病産業研究会の会員（法人）であること（入会予定を含む）等

主な流れ（①～⑧は県と共同実施）



※1　有害事象発生等を県がモニタリング
※2　関係施策等に評価結果を積極的広報

◆提出書類（各1部）

（1）提案書、実施計画書、参加者への説明文書・同意文書、対象商品・サービスの概要書

（2）倫理審査等の必要な手続きに関する提出資料の写し、及び承認等がされた旨が明記された資料の写し

（3）対象商品・サービスの機能性・安全性に関する非臨床試験及び臨床研究・試験等の成績（科学論文、試験結果報告書等）

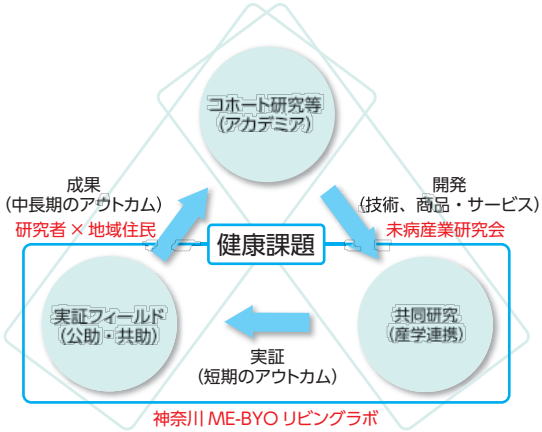
（4）実証事業提案者の企業パンフレット・会社概要、法人登記事項証明書（原本）、直近2年分の財務諸表

専　門　委　員	担　当　分　野
大谷　泰夫 【現職】神奈川県立保健福祉大学理事長、県顧問・政策推進担当	未病（健康増進）に関する知見（未病の科学的エビデンスの確立、研究テーマ、国との連携、ヘルスイノベーションスクール（SHI）との連携）
鄭　雄一 【現職】神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科研究科長、東京大学大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻及び医学系研究科疾患生命工学研究センター教授	未病（健康増進）に関する知見（未病の科学的エビデンスの確立、研究テーマ、世界保健機関（WHO）との連携、未病指標との連携）
吉田　穂波 【現職】神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科教授	臨床研究に関する医学的知見 （未病の科学的エビデンスの確立、研究デザイン）
成松　宏人 【現職】神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科教授	
中村　翔 【現職】神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科講師	
林　令奈 【現職】東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻医療倫理学分野　特任助教	臨床研究における個人情報の取り扱いやコンプライアンスに関する知見
山中　竹春 【現職】横浜市立大学医学部臨床統計学主任教授・次世代臨床研究センター　副センター長	臨床研究に関する統計学的知見
根本　昌彦 【現職】（株）未来戦略研究所代表	次世代社会システム（ビジネスモデル・社会実装モデル）に関する知見
三邊　立彦 【現職】（株）電通　事業共創局テクノロジー開発部　GM	

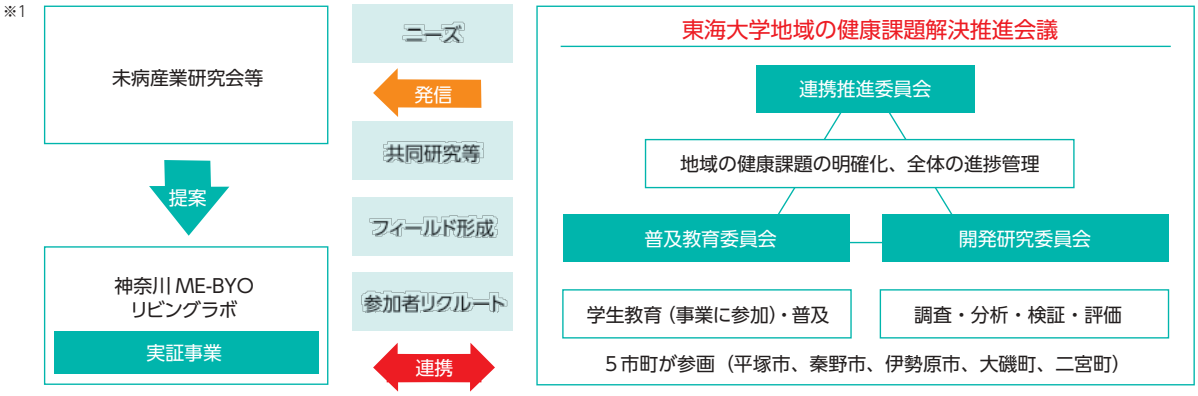
地域連携フィールドの創出・拡大

地域の健康課題の解決には、民産学公による地域連携フィールドの創出・拡大が重要と考えています。神奈川 ME-BYO リビングラボを推進する上でも、未病関連商品・サービスの開発や実証のための共同研究パートナー及び実証フィールドパートナーの拡大を図るとともに、研究者が地域住民等と連携して取り組む健康・医療・介護分野のフィールド研究等との協力関係の構築を積極的に進めています。

先行事例として、平成 30 年10月に神奈川県と東海大学、県内の複数の自治体などが参画して発足した「東海大学地域の健康課題解決推進会議※1」との連携や、「神奈川みらい未病コホート研究※2」との協力関係の構築（フィールドの共有）などが挙げられます。



※1



※2　がんや生活習慣病に対する個別化予防医療の確立のために遺伝子・環境の相互作用を含めた関連を明らかにする研究。2016 年度から小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町で実施。（研究代表者：神奈川県立病院機構がんセンター臨床研究所がん予防・情報学部部長　成松　宏人）

ME-BYO リビングラボ 特別鼎談

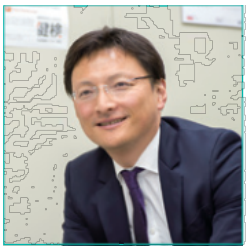
民産学公が連携した地域の健康課題解決の取組みと、実証フィールドの重要性、課題について

2019年11月に開催された「国際シンポジウム『ME-BYO サミット神奈川 2019』分科会7」では、県内外のフィールドで研究を行うアカデミアのメンバーが、「ME-BYOでデザインするまちづくり」と題して、地域の課題解決について議論を行いました。
このたび、神奈川ME-BYOリビングラボとゆかりのあるメンバー3名を再び迎え、「民産学公が連携した取組みの重要性」などについて意見交換する特別鼎談を実施しました。

■まずは、これまでの活動を通じて、地域の健康課題とはどのようなものとお考えかですか？

成松

私は長くコホート研究に取り組んでいます。地域に入って様々なデータを集めて、その後協力してくださった方々がどうなっていくかを観ていく研究です。現場に行くことも多く、例えば小田原市では、保健師さんから「脳卒中が多いが、どうしたらよいかわからない」といった悩みを聞き、集めたデータを分析して脳卒中につながる塩分摂取量などを自治体やクリニックを通して地域にお返しています。次世代につながる医療、特に予防医療をより良くしていくとともに、地域の困っていることを聞いて、少しでも解決する取組みを行っています。



小熊

私は藤沢市で、身体活動に焦点を当てた健康増進活動※1をしています。身体を動かすことが健康に良いことはかなりエビデンスもあって分かっています。では、皆さんが「できているか」というと「できていない」、自治体の健康教室などに来る人はいつも同じ、リーチできない人をどうしたらよいかということが地域の健康課題として見えてきます。そこで、皆さんの活動の場にこちらから出向いて、ちょっと運動してもらう、気持ち良いということを実感してもらう場を作ることが大事だとわかってきました。そうすると一見、運動しないような方たちでも自分達でもできそうだ、グループで運動の場を作ろうということになる。そこをうまく支援することで地域の活性化、健康課題解決にもつながります。実際、ここ4、5年で成果も出ています。

※1 ふじさわプラス・テン
http://www.plusten.sfc.keio.ac.jp

石井

私は、20年前に「自分の身体のことは案外知らないし、知る術もない」と思い、東京の附属病院に「抗加齢ドック」を開設してもらいました。そこから見えてきたのは健康に関心が高い人しか集まらないということです。また、自治体の職員の方にお話を聞くと特定健診を受ける人は3割ぐらいしかいない。それなら、ということで「健康バス」※2を作りました。学生と一緒に地域に出向き簡易な健診を行って、データを使って保健師さんが健康指導します。この評判が良くて今、伊勢原市と秦野市で合わせて年15回ほど実施しています。

※2 東海大学健康学部がバスに健診機器を積み込んで、公民館などを訪問して血圧や骨密度等の計測を行い、特定健診の受診促進や健康意識の啓発を目指す活動

■健康に対して「動かない人を動かす」という課題にどう取り組んでいますか？

成松

私たちは、研究者のスキルや経験を今の予防医療にも使いたいという思いがすごくあります。私が以前にいた山形では、地域と研究をつなぐプラットフォームとしてNPO法人※3を立ち上げて、集めたデータを解析してお返ししたり、地域の健康増進活動にかかわったりして、研究成果を地域に還元する活動をしてきました。これから神奈川でもこうした活動を展開していきたいと考えています。

※3 特定非営利活動法人　地域健康プラン
http://tkk-plan.com

小熊

研究者が直接リーチできる人は限られていて、その人たちが地域でまた仲間をつくって広げていく仕組みが大事だと思っています。研究で始めたことが行政の健康施策につながり長期的にまた多くの人に行えるようになる、研究者側は今度はその成果を長期的に集団レベルで評価する役割を担う、といった形でスケールアップしていくことが大事かと思います。

石井

健康バスは、特定健診の受診者を増やそうということで始めました。そこで分かったことは、自治会まで出向くので知り合いが集まり、測定までの待ち時間もあまり苦痛にならない、そのあともお茶を飲んでいこうというふうになります。お祭りなどではさらに長くなりますが、そこは学生さんとの会話を楽しんでもらうことで解決しています。大学ならではの良さですね。

■研究を展開する上で大切になるのが実証フィールドだと思います。これをどう構築し、今後どう活かしていこうとお考えかお話いただけますか？

鼎談参加者
成松宏人（神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科教授）写真右
小熊祐子（慶應義塾大学スポーツ医学研究センター・大学院健康マネジメント研究科准教授）写真中央
石井直明（東海大学健康学部健康マネジメント学科特任教授）写真左
敬称略

成松
私たちは、コホート研究のフィールドを使った介入研究を立ち上げて、新しいテクノロジーを地域課題の解決につなげる活動をもっと強化したいと考えており、その成果を評価して、さらに良いものを生み出す好循環を作っていきたいと思っています。

小熊
実証フィールドは、地域の皆様や行政との関係性などが培われてきてできるものだと思います。またこの実証フィールドで生まれたグッドプラクティス（優れた取組み）も内外に発信して横展開していくことも重要だと思います。

石井
地域の方を集めるのはとても大変です。「自分は健康だから、病院に行っているから」という方が多いんです。健康バスの人気の秘訣は保健師さんの指導にありますが、その後指導を守っているか、行動変容につながっているかわかりません。そこはやっぱり企業の技術、商品・サービスを組み込む必要性を感じます。

■研究者として産業界にどのようなことを期待していますか？

成松
石井先生のご意見にすごく共感します。アカデミアは科学的に分析するのは得意ですが、楽しくやるとかは苦手ですね。山形の NPO 法人では高齢者の居場所づくりを受託していて、これは社団法人との連携ですが、「くちビルディング」というオーラルフレイルを防ぐためのプログラムを提供しています。競争形式をうまく取り入れて、すごく盛り上がっていて、次も来ようというふうになっています。こうした切り口が重要で、そこを産業界に期待します。

小熊
身体活動で言うと、若い世代、特に若い女性の運動不足も課題で、まさに産業界と組むことがとても大事だと思っています。健康経営だけではなく、楽しいものの提供という意味でも有効だと思います。

石井
私がすごく感じるのは、健康は痛くも痒くもないので、当然タダ（無料）だと思われています。これを「有料でも受けたい」と思わせるのは、企業のセンスやノウハウだと思っています。

■最後に、神奈川 ME-BYO リビングラボへの期待や目指す社会についてお願いします。

成松
私は、企業ともっともっと組みたいという思いがあります。これからの健康づくりは「より効率化」され、「より楽しく」というのが私の理想です。「効率化」のキーワードは「個別化」です。ゲノムもその切り口の一つです。一方、健康づくりと聞くと「我慢」や「ツライ」ことを想像してしまいますが、「楽しい」と思えるプログラムを企業や行政の皆さんと一緒に作っていきたいですね。そこで、リビングラボと連携していければと思います。健康であることはやはり、楽しくて嬉しいことなんだと思える社会になるとよいと思います。

小熊
健康増進や身体活動は生活習慣に関係するもので、それ自体は個人の問題です。同時に周りの環境も非常に重要で、地域で考えるとアカデミア、行政、学校、健康・運動施設等が協力していくことで良い形ができると思います。それぞれが協力・役割分担して、コベネフィットが得られる形で進めていけるといいと思います。

石井
健康増進活動は医療費削減にすごく貢献するんですが、いつまでも自治体に頼るのではなくて、ビジネスにしていかないと発展性がないと思っています。企業は大学が何をしているのか知らないんです。リビングラボに提案してからお互いを知るというのではなくて、提案前から一緒にやりましょうという状況を神奈川県には作ってほしいですね。

神奈川県では神奈川 ME-BYOリビングラボを通じて、今後も実証フィールドを中心に民産学公連携の取組みを促進し、皆様の研究成果をいち早く地域に還元できるよう頑張ってまいります。本日はありがとうございました。

実証例 1

アルケア株式会社

会社概要
設　立：1955 年 7 月
資本金：9,000 万円
従業員：550 名（2019 年 6 月末）

事業概要
アルケア株式会社は、2014 年から神奈川県の大磯町・東海大学と共同で「おおいそ産官学連携事業（平成 27 年度経済産業省健康寿命延伸産業創出推進事業）」を実施し、月 1 回のアンチロコモ教室の開催で参加者の 8 割以上の下肢筋力向上を達成しました。
平成 29 年度実証事業では、大磯町で実施していた「アンチロコモ教室」のノウハウを用いて「地域リーダー」を育成し、地域住民を対象に教室を開催して運動指導の効果検証等を行いました。
（地域リーダーの講習参加者数 18 名／各地域での教室参加者数 59 名）

リビングラボ

行政 / 医療機関と連携した
ウォーキング・介護予防教室での
・リハビリ難民の現状把握
・通いの場づくり
・連携手法、事業効果の検証

実証課題	共創メンバー	対　象	成　果　物
リハビリ難民の現状把握	座間市 整形外科診療所	整形外科通院患者と地域住民	整形通院患者はセルフエクササイズが必要（医師が患者に求めている）
脳トレ教室＋筋トレで集客は変化するか	茅ヶ崎市 脳トレ教室事業者	脳トレ教室に通う地域住民	筋トレ追加で男性参加者増加
ウォーキング教室に＋筋トレ教室は受容されるか	大磯町 コミュニティカフェ事業者	コミュニティカフェに通う地域住民	筋トレを追加することは参加者満足度向上
ウォーキング教室の効果検証	伊勢原市 運動指導事業者	ウォーキング事業参加地域住民	ウォーキング参加のみでは筋力は向上しないことを確認
行政・市民病院社協協業での通いの場づくり	三浦市、三浦市民病院 三浦市社会福祉協議会	フレイルサポーター	地域住民をリーダー化することができた

ストラクチャ（構造・組織・体系）

ときどき学び ①初めての人でもできる
ヘルスプロモーションの効果
向上の為のヘルスリテラシー向上（健康講話）

日々努力 ①初めての人でもできる ②虚弱な高齢者でも安全にできる
下肢中心の体重比別 4 段階
トレーニング

日々振り返り ④住民自身が体操の効果を実感できる
厚労省の薦める「介護予防手帳」
日々の運動のセルフマネジメント

ときどきからだチェック ④住民自身が体操の効果を実感できる
身体全体の筋肉の70%を占める
下肢筋の中の大腿四頭筋力を測定

プロセス（過程・工程・方法）

介　入
月 1 回　対面型　2 時間の教室で
1）健康講話
2）体重比別運動フォーム確認
3）手帳の回収
4）膝伸展筋力測定
5）活動量計の回収

コミュニケーション
1）アナログ主体・デジタル無
2）集団コミュニケーション

アウトカム（結果・成果）

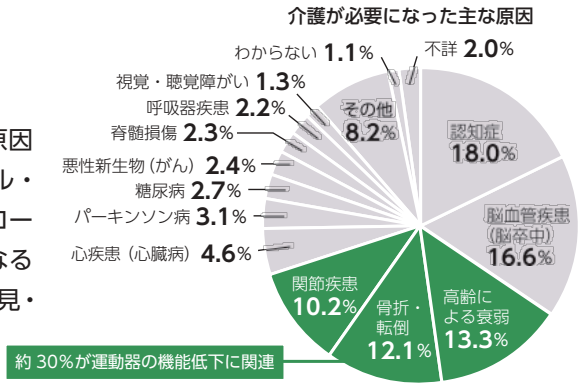
ロ　コ　モ
1）ロコモ度の改善
2）下肢筋力向上　80%以上

参　加　率
継続参加率　80%以上
⑤介護予防の効果が実証されている

残課題
③虚弱高齢者から元気高齢者まで誰もが一緒に出来る

解決すべき社会課題

「運動器機能低下の早期発見・介入」
平成 28 年国民生活基礎調査によると、要介護になる主な原因は「認知症」となっていますが、高齢による衰弱（フレイル・サルコペニア）、骨折・転倒、関節疾患（ロコモティブシンドローム）を合わせると全体の 30%を超えます（緑色部分）。更なる高齢化の進行に備え、可逆性のある運動器機能低下の早期発見・介入は喫緊の課題となっています。

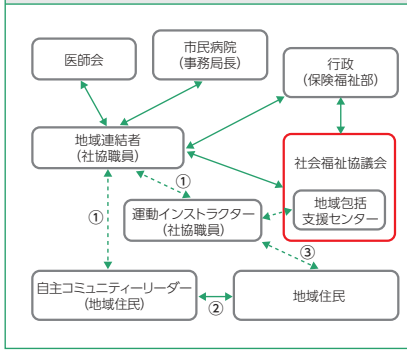


事業の提供価値

行政主体の「公助」の取組みが中心となっている介護予防対策に、地域リーダーを中心とした「自助・互助」による取組みを加えた新しい社会システムを構築します。
ロコモ・フレイルなどの運動器機能の低下は適切な運動により改善効果が期待できます。地域リーダーを育成し、地域リソースを活用したロコモ予防事業を広めることで、地域医療者等と連携して個別の身体能力に応じたセルフメディケーションを継続してもらうための情報・教育・関係性を提供し、持続的な地域包括ケア体制の構築を目指します。

フィールド	三浦市	キャラクター	社会福祉協議会	個人的立場	社協職員、理学療法士
社会的立場	地域連結者			構　造	互助 / 公助
機　能	地域関係者連結とボランティア育成	事業状況	立ち上げ、停滞		
弊社役割	コンテンツ提供・ボランティア育成	課　題	自主グループ新規立ち上げと既存グループの再稼動		

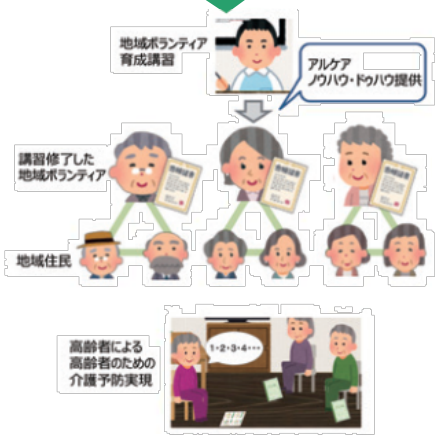
概略図



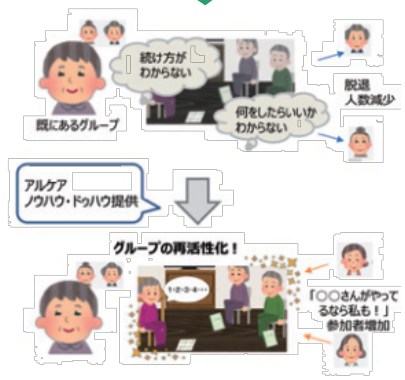
具体的な活動

①協同	継続育成の介護予防インストラクターの自走活動を目的と地域包括で受託している運動教室の効果向上を目指し、インストラクター養成講座を共催 〈連携時のポイント〉 1）ソーシャルグッドを明確にする事 2）従来の取組みとの整合をとる事 3）自社商品・サービスの科学的妥当性を示す事
②協同調整	自宅をコミュニティスペースに改装した自主コミュニティーリーダーの場に、必要な運動指導商品・サービスを提供し、円滑推進に寄与 〈連携時のポイント〉 1）安全確保（有事マニュアル作成済み） 2）提供物 / 方法を状況対応し調整可能か 3）従来の取組みとの整合をとる事
③協同調整	地域包括が受託している運動教室の場に、運動指導商品・サービス提供し、効果ある場に発展 〈連携時のポイント〉 1）安全確保（有事マニュアル作成済み） 2）提供物 / 方法を状況対応し調整可能か 3）従来の取組みとの整合をとる事

ケース 1：自主グループ新規立ち上げ



ケース 2：既存グループ再稼働



Voice

東海大学 大学院
体育学研究科長 教授
萩 裕美子様

アカデミア

県民の意識を変えるために、長期にわたって取り組んで欲しい。

2014 年からスタートした大磯町での「アンチロコモ教室」の運営において、アルケアさんは常にプログラムや指導法などを見直し、日々進化させていきました。年を追って高い参加率を保つことができ、参加者の健康への意識が変わり、セルフ・エフィカシー（自己効力感）が高まり、ライフスタイルを見直すという成果が出ました。この成果を広めるためには、社会システムづくりが重要です。また今回の実証事業で私は常に「連携」の必要性を訴えてきましたが、事業に加わった皆さんの人間関係が構築でき、現場のアクションリサーチをまとめていただいたことも、研究していく上で大きな財産です。こうした実証事業のプラットホームを行政が主導していることは心強く思いますが、健康づくりは長期間継続しなければ結果が出るものではありませんから、今後も産官学の協力関係を丁寧に育てていっていただくことを期待します。

三浦市社会福祉協議会
事務局長
社会福祉士、理学療法士
成田 慎一様

フィールド

地域リーダーが、各地でサロンを立ち上げ活動継続しています。

当会は地域のコミュニティづくりが一つの使命であり、その一環として 2015 年からの 3 年間で介護ボランティア 120 名を育成しました。アルケアさんの実証事業は、彼らの実践の場として最適だと考え参加しました。「アンチロコモ教室」では、体操のシンプルさや、チェックシートが励みになると参加者に好評でした。嬉しいのは、その後、リーダーの方々がサロンを立ち上げ、現在も自治会館や自宅などで活動を継続していることです。当会の体操教室でも引き続き筋肉をつける体操として導入しています。「楽しい」「誰でもできる」といった口コミで参加者が広がっています。アルケアさんともプログラム開発などで定期的に情報交換していますが、実証事業は、参加したフィールドの我々や事業者が結果や仕組みをどう活かしていくかが大切だと思うので、今後も継続してより多くの市民の健康づくりに役立てていきたいですね。

実証例
2

RIZAP 株式会社

会社概要
会社名：RIZAP 株式会社
設　立：2009 年 5 月
資本金：8 億 8500 万円（2018 年 3 月 31 日現在）
従業員：1,138 名

事業概要
RIZAP 株式会社は、ブランドイメージを「ダイエット」だけでなく「健康・スポーツ」にも醸成していきたいと考えています。
令和元年度実証事業では、RIZAP 株式会社が 40 歳以上 60 歳以下の湘南ベルマーレサポーターのメタボ男性に 3 か月間、ファン意識（情緒的価値）を活用した運動・生活習慣改善の動機付けを行い、実際に健康化につながるような行動変容及びメタボに関連するスコア（体重・BMI 等）の改善が見られるかを検証しました。（参加者数 137 名）

リビングラボ

1 健康増進プログラム（定期的介入・日常的介入）

①トレーニング＆講義
- 全 4 回のグループレッスン（50 人に対してトレーナー 1 名。大人数時はトレーナー増員）
- 内容：可動域の確保 / 正しいフォームの獲得 /BIG 3 の実践など
- 時間：約 30-60分間のトレーニング＋約 30 分の講義

②食事サポート
- 一日の必要摂取量 /PFC バランス / 最適な食事法 / 糖質摂取量 / 摂取カロリーの計算などについて上記講義および自宅用テキストを活用
- 「糖質量ハンドブック」
- 「ダイエットダイアリー」

③マネジメント
- 目標設定と達成理論の実践に関して講義（初回）
- 月 1 回程度のメールマガジンによる参考情報の送付

	初回 (8/31)	二回目 複数回開催される中から任意の回に参加	三回目	最終回 (11/30)
0	座学 •目標設定 •食事の重要性 •食事に関して •運動の話	座学 •食事のチェック •食事の話 •姿勢学	座学 •食事のチェック •継続のコツ	座学 •目標確認
60min		トレーニング •ストレッチ •エアロビクス •ファンクショナル	トレーニング •ストレッチ •エアロビクス •ファンクショナル •BIG 3	トレーニング •可動域の確保 •ストレッチ •エアロビクス •ファンクショナル •BIG 3
90min	トレーニング •可動域の確保 •ストレッチ			
120min				

2 湘南ベルマーレの選手による激励動画、メールマガジンの配信（定期的介入）

解決すべき社会課題

「メタボリックシンドローム（不健康な生活習慣を変える行動変容）」
メタボリックシンドローム（メタボ）は、食べ過ぎや運動不足など不健康な生活習慣が原因となり、脳梗塞や心筋梗塞などの心臓や血管の病気や糖尿病の発症のリスクが高まっている身体状態を指します。ひとたび脳梗塞、心筋梗塞、糖尿病などを発症してしまうと健康を回復するのは容易ではなく、患者さんや家族、社会に重い負担がのしかかります。
ではメタボな人が寿命まで健康に生きるにはどうしたらよいのでしょうか？

事業の提供価値

実証事業参加者への提供価値：正しい運動習慣、食習慣を知り、目標達成メソッドを実践することで、メタボ改善のきっかけを掴んでいただきました。加えて湘南ベルマーレサポーターという、共通の趣味を持つコミュニティ（仲間）の中で生活習慣改善に取り組むことで、より高い効果を得られるということを実感していただけたと考えます。

実証フィールドへの提供価値：3か月という実証期間を通じて、初めてサポーターの健康にアプローチするイベントが実施でき、参加したサポーターと実証フィールド（湘南ベルマーレ／同サポーターズ協議会）との間の関係性をより深める効果が得られると考えます。

実証事業の様子（トッケイセキュリティ平塚総合体育館）

実証事業

実証事業者
（健康増進プログラム提供
＋
選手による激励メッセージ動画作成）

RIZAP

Bellmare

実証フィールド
（ファンコミュニティ）

iPark Shonan

ファシリテーター
（第一期湘南会議※）

※湘南アイパークのファシリテーションのもと、神奈川県（未病産業研究会）、藤沢市、鎌倉市の支援を受けて実施された未病のビジネス化を目指した複数の民間企業が共創するコンソーシアム（第一期：2018 年 11 月から 2019 年 3 月）。

Voice

湘南ヘルスイノベーションパーク
ジェネラルマネージャー
医師 **藤本 利夫様**

ファシリテーター

新製品、サービスの実証事業においてリビングラボに期待。

湘南ヘルスイノベーションパークは、未病のビジネス化を目指して複数企業が共創するコンソーシアム「湘南会議」を推進しています。その第一期の取組みであるライザップさんの健康プログラムの効果を検証する上でリビングラボは最適でした。実証事業の過程において当初考えていたものとは異なる成果が発見できました。本事業の参加者たちはみんな初対面でしたが、ベルマーレファンという共通項によってすぐに会話が成り立ち「一緒に頑張りましょう」というコミュニティがつくられ、活動が高い意識で継続されたのです。コミュニティ形成による運動普及。これはライザップさんにとって新しいトレーニングモデルの可能性で、私たちにとっても非常に興味深い知見になりました。湘南会議としては、今後も製品やサービスの実証フィールドの提供などにおいてリビングラボには大いに期待しています。

株式会社 湘南ベルマーレ
マーケティング室リーダー
荻野 駿様

フィールド

「ベルマーレとの一体感」で楽しく真剣に取り組めました。

湘南ベルマーレはクラブとサポーターの距離感が近く、皆さまの「クラブ愛」に支えられています。今回サポーターの 40 代以上の方を対象に募集したところ、すぐに約 200 人の応募がありました。ライザップさんの講義を受け、提供された運動プログラムを各自で取り組みましたが、真剣かつ積極的な姿勢が印象的でした。モチベーションが高い理由の一つは、「ベルマーレと一緒にやっている」という共同意識だと思います。4 回あったセッションへの出席率も高く、質問も多く、皆さん楽しそうでした。さらに、週に 1 度の選手からの動画による激励メッセージも「やる気」を継続するうえで有効だったと思います。今回のモデルは、サポーターの皆さんが「健康」「元気」になることはクラブにとっても喜ばしいことです。私たちのようなサッカークラブだけではなくさまざまな「場」での活用が可能だと思います。

実証例 3

エーテンラボ株式会社

会社概要
会社名：エーテンラボ株式会社
設　立：2016 年 12 月
資本金：4,800 万円
従業員：8 名（2019 年 12 月末）

事業概要
エーテンラボ株式会社は、習慣化の成功率が一人で行うときの約 8 倍（同社調べ）というピアサポート※1型アプリ「みんチャレ※2」を提供しており、糖尿病改善を目指すユーザーを対象としたアンケートでは、使用前後の HbA1c の値が平均1.0％減少し、１日の平均歩数も2,000歩以上向上したという結果を得ました。
令和元年度実証事業では、40歳以上70歳以下の２型糖尿病・予備群（HbA1c5.6％以上 7.0％未満）に３か月から５か月間、「みんチャレ」を提供し、生活習慣改善の効果検証等を行うとともに、連携可能な実証フィールドとの事業から効果的な協業モデルの探索を行いました。（参加者数58 名）

リビングラボ

行政 / 企業 / 医療機関と連携した
・効果的な協業モデルの構築
・事業効果の検証

フィールド	共創メンバー	対　象
自治体	平塚市、藤沢市、逗子市、秦野市、寒川町、大磯町 健康づくり担当課	市町が提供する糖尿病予防プログラム（生活習慣病対策講座等）に参加した地域住民等
企　業	富士通コワーコ（横浜市） 健康経営担当	企業（または健康保険組合）が提供するヘルスケアサービスに参加した従業員
医療機関	葵会 AOI 国際病院（川崎市） JMA カラダテラス海老名（海老名市） 糖尿病専門医、健診センター	健康講座に参加した地域住民等（糖尿病専門医からの紹介）や健診センター利用者

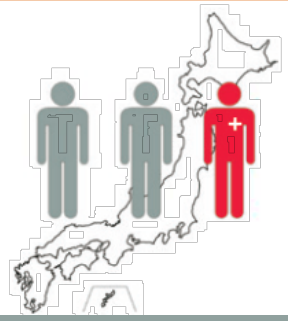
3つの仕組みで、行動変容が続きます。

証拠写真を送る 自己認知　同じ目標のユーザー同士の ピアサポート　AI サポートやコイン獲得などの ゲーミフィケーション

※1　仲間や同輩が相互に助け合い課題解決する活動（出典「日本ピア・サポート学会」より）
※2　新しい習慣を身に付けたい５人が匿名でチーム（コミュニティ）を作り、ピアサポート、ピアプレッシャー、自己認知（証拠写真を送る）、ゲーミフィケーション（AI サポートやコイン獲得など）によって行動変容を促すアプリ（行動経済学、ナッジ理論適用）

解決すべき社会課題

「生活習慣病患者及び予備群の増加（継続的な生活習慣の改善）」
運動や食生活の改善などは辛く継続が困難です。また、糖尿病になった場合でも発症初期は無自覚・無症状なため治療に対するモチベーションが持続しにくいと言われています。



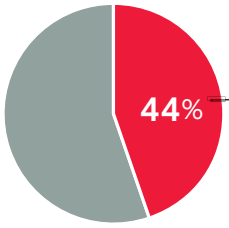
日本の人口
約 1 億 2,680 万人に対して
患者数約 **4,568** 万人

3 人に 1 人が
生活習慣病 & 予備群

動脈硬化症・糖尿病・高血圧症・脂質異常症など

出典：厚生労働省「生活習慣病対策の総合的な推進について」

生活習慣病の**治療が継続しない**



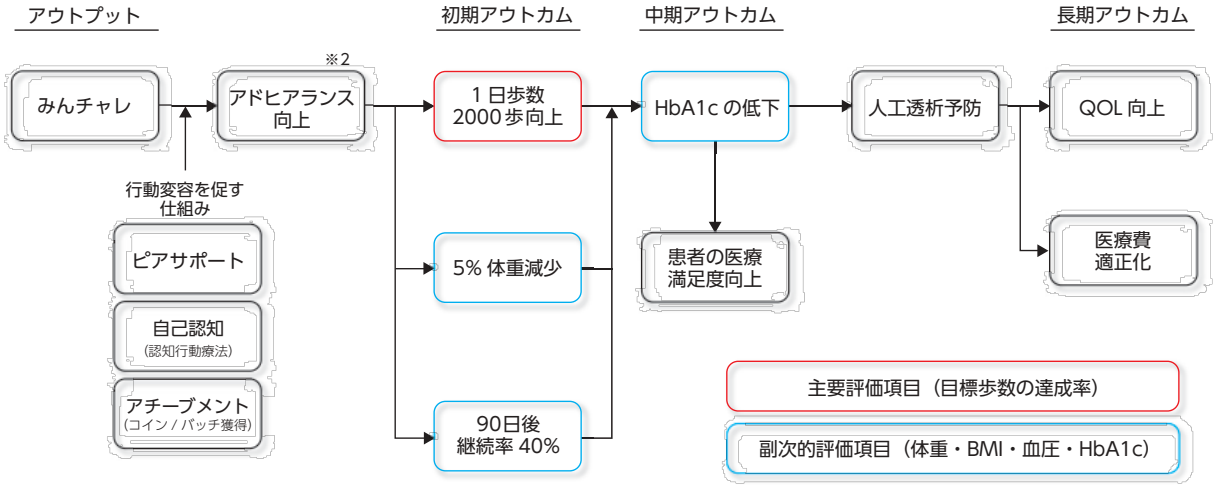
糖尿病の場合
約 **44%** が治療を断念し
重症化するケースがあり

放置すると…糖尿病腎症　糖尿病網膜症　心筋梗塞　脳梗塞など

出展：厚生労働省「健康日本 21 評価作業チーム」より

事業の提供価値

生活習慣病患者等は、5人一組のコミュニティ（仲間）を形成し一緒に目標達成を目指すことで不安・喜びを共有し孤独感が解消でき、みんチャレ内のポジティブなコミュニケーションによって前向きに日々の生活を送れるようになります。これによって生活習慣改善が継続でき健康の維持・増進が図られます。
また、社会への帰属意識が高まり QOL（クオリティオブライフ）が向上し、将来の医療費適正化※1 にも寄与することが期待できます。



※1　今後、糖尿病の重症化予防で「みんチャレ」が活用されることで、国全体で年間 13,479 人の透析移行の阻止と年間 674 億円の透析医療費の削減（県全体では年間 962 人の阻止と 48 億円削減）ができると試算しています。
※2　患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けること。

Voice

社会医療法人
ジャパンメディカルアライアンス
カラダテラス海老名 管理部 部長
小松 英之様

フィールド

経過報告から「みんチャレ」活用の可能性を感じています。

カラダテラス海老名のコンセプトは「受けたくなる健診」で、特長として「快適さ」「利便性」「お客さまとの対話」を掲げています。「みんチャレ」は、楽しくできる、お客さまとの接点が増えるという点で、私たちの方向性と共通点を感じ、実証事業に参加させていただきました。参加者から「ゲーム感覚で取り組める」「メンバー同士鼓舞し合いながら頑張れる」という声が聞かれました。目標歩数はグループごとに異なりますが、歩行に加えて、体重や食事制限を設定して報告し合っているグループもあります。連帯感が生まれ、「頑張ったね」と言ってもらえることで、同じ目標に向かうメンバーの一員として、普段から歩くことを意識し、食事に気を遣うようになっています。医療施設にとって「みんチャレ」の活用が、お客さまの健診機会を増やし、生活習慣改善の意識改革にもつなげていける可能性を感じています。

平塚市 健康・こども部
健康課 課長
磯部 達男様

フィールド

健康増進の新しいツールとして、より関心を持ちました。

スマホのアプリを利用して健康行動を継続するというアプローチに関心をもちました。平塚市では「糖尿病重症化予防事業」として、健診結果をもとに対象者への啓蒙を行っていて、今回は予防事業の利用者へ呼びかけて、実証事業に参加しました。経過としてとても良い報告が寄せられています。「メンバーが頑張っている様子に刺激される」「すごいね、という反応に張り合いが生まれる」。また歩行報告は写真をアップする仕組みになっていて、外出先の風景や趣味などの投稿を通して「メンバーとの交流が楽しくて、歩行もいっそう励むことができる」という声もあります。「みんチャレのおかげで続けられる」という報告は、このツールの効果のほどを物語っています。行政が市民の健康増進に取り組むにあたり、マンパワー不足は大きな悩みですが、「みんチャレ」のようなツール活用が、解決の一助になっていくことを実感しています。

実証例
4

カゴメ株式会社

会社概要
設　立：1949 年 8 月
資本金：19,985 百万円
従業員：2,504 名（2018 年 12 月末）

事業概要
カゴメ株式会社は、2016 年に「『トマトの会社』から『野菜の会社』に」を長期ビジョンに掲げ、野菜摂取のメリットやメソッドを伝え、食生活に関する意識や行動を改善するためのサービスを提供しています。主に管理栄養士資格を有する社員をリソースとした「野菜と生活 管理栄養士ラボ®」による食生活改善セミナーと、野菜摂取の充足度を表示する機器「ベジチェック™」のリース・レンタルを行っています。
平成 30 年度実証事業では、健康経営を推進する神奈川県内の企業・事業所※と連携し、従業員を対象に食生活改善セミナーを開催して、野菜摂取量や野菜摂取に関する意識・行動に与える効果を検証しました（3 か月間、参加者数 225 名）。また、令和元年度実証事業では、前年度の実証事業で明らかとなった課題を踏まえ、食生活改善セミナーとベジチェック™ を組み合わせた「食生活改善プログラム」の効果検証を行いました（3 か月間、参加者数 191 名）。

リビングラボ

健康経営を推進する企業・事業所と連携した
・効果的なサービスモデルの構築
・事業効果の検証

①食生活改善セミナー

②野菜摂取量の記録

③野菜摂取の環境サポート

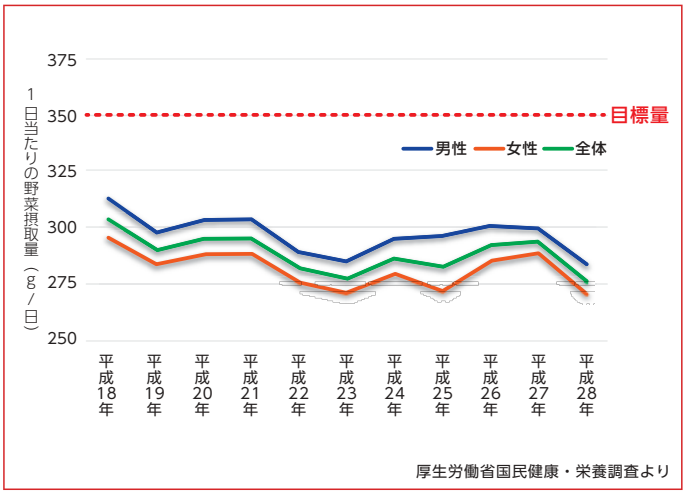
＋

④ベジチェックによる測定

※①川本工業株式会社（横浜市中区）、②富士通ゼネラル株式会社（川崎市高津区）、③古河電気工業株式会社横浜事業所（横浜市西区）、④古河電気工業株式会社平塚事業所（平塚市）、⑤公益財団法人横浜 YMCA（横浜市中区）

解決すべき社会課題

「野菜摂取量の増加、食生活改善の習慣化」
高齢化の急速な進展に伴う疾病構造の変化により、疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加し、死亡原因でも生活習慣病関連の疾患が約 6 割を占めるようになりました。
野菜摂取は、世界中の疫学研究などの結果から、生活習慣病の予防に効果的であると報告されており、日本人の健康課題を解決する上で重要と考えられています。しかし、「健康日本 21※」が制定された 2001 年から 2020 年現在までに、日本人の野菜摂取量は目標量とされる 350g/日に達したことはなく、2019 年の国民健康・栄養調査においては、平均 281g / 日と、前年よりも 7g 減少しました。

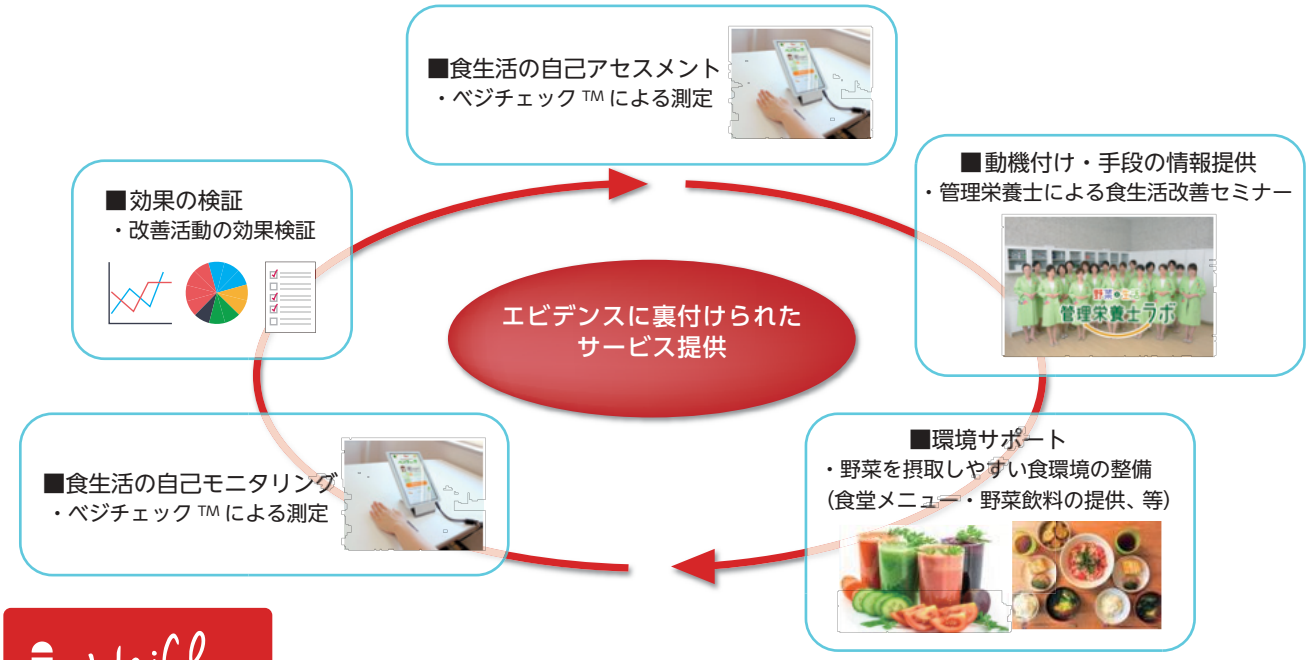


※21 世紀において日本に住む一人ひとりの健康を実現するための、新しい考え方による国民健康づくり運動

事業の提供価値

実証事業参加者への提供価値：プログラムの受講により、野菜摂取の必要性や、日常の食事において摂取量を把握する方法、摂取量を増やすことができる食品の選び方について知ることができ、また簡単に摂取できるツールや、行動及びその結果を自己モニタリングできるデバイスを一定期間使用することで、野菜摂取を中心とした食生活改善行動が身に付き、習慣化することができると考えます。

実証フィールドへの提供価値：企業・事業所が健康経営を推進する中で、エビデンスに裏付けられた食生活改善プログラムを提供することによって、高い効果が得られ、その結果として従業員のQOL（クオリティオブライフ）の向上や生産性の向上などへつながることが期待できます。



Voice

川本工業株式会社
管理部 総務課 係長
加来 幸朗様

フィールド

10 週間後に野菜摂取量が大幅に増えました。

当社では社訓で従業員の健康づくりを明文化しているように、健康経営を推進してきました。カゴメさんの実証事業には 2018 年度も参加させていただき、2 年連続の実施となりました。毎日野菜を摂る大切さを、少しでも理解、実感してもらうことが目的ですが、参加者は期間中、顔を合わせるとお互いに、野菜を食べているか、野菜ジュースを飲んでいるか確認していたようで、チェックシートの活用も含めて、継続の要因になりました。また 2019 年度は摂取量を可視化できる「ベジチェック」の存在も大きく、10 週間後には全員、摂取量が増え、レベル 4 からレベル 8（1 日 300 グラム以上）に上がった人もいました。ほかの取組みも含めての成果だと思いますが、健康診断では昨年と比べ再検査の人が 20 人以上減りました。今後も当社では様々なアプローチで従業員の健康への意識を高め、健康習慣の定着化を目指していきます。

古河電気工業株式会社
総務・CSR 本部 平塚事業所
総務課 保健師
眞壁 亜紀子様

フィールド

健康づくりに「継続」の大切さを改めて実感しました。

当社は企業の責任として従業員の健康づくりに取り組んでいます。平塚事業所は 60 年以上の歴史をもち、従業員の多くが神奈川県民で、いずれは地域へ戻っていきます。ですから従業員の「未病の改善」は地域への貢献であるとも考えています。カゴメさんの実証事業は 2018年度に続いての参加で、2019 年度は特に野菜摂取量を可視化できる「ベジチェック」により、健康づくりに楽しく取り組めることを期待し参加しました。参加者の半数がベジチェックで定期的に数値を測る試験群になりましたが、期待どおり毎週数値が上がるとモチベーションも上がり、当初レベル 3 や 4 だった人が最終的にレベル 8 以上を記録しました。健康づくりは継続的に取り組むことが大切で、リビングラボの実証事業も長い目で続けて、健康意識を浸透させていって欲しいです。

実証例
5

株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団

会社概要
設　立：2004 年 5 月
資本金：100 百万円
従業員：155 名（2019 年 3 月末）

事業概要
株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団は、2000 年に開始された介護保険制度の維持には予防事業が不可欠と考え、科学的根拠に基づいた独自の介護予防プログラムの提供や用具の開発等の取組みを行っています。
令和元年度実証事業では、軽度の介護認定者等を対象としたデイサービス（通所介護）を提供する介護施設等※1で、自立した生活を送るために必要な体力を身に付ける機能訓練に歩行解析デバイス「AYUMI EYE※2」を 1.5 か月から 3 か月間適用（原則、毎回測定）し、利用者の意識・行動変容、及び機能訓練を指導するスタッフの負担軽減等への効果を検証しました。（歩行測定者 114 名、スタッフ 52 名）

リビングラボ

利用者の満足度と
スタッフの働きやすさ向上

効果的な身体機能測定

利用者側
・運動効果がすぐに把握でき、わかりやすい
　セルフ・エフィカシー（自己効力感）向上
　コミュニケーション（つながり）創出
・短時間で測定が終わり疲れない

スタッフ側
・測定等に関する負担が軽減（簡単・短時間）
・正確な評価が可能（経験則＋エビデンス）

AYUMI EYE の可能性

適切な介入

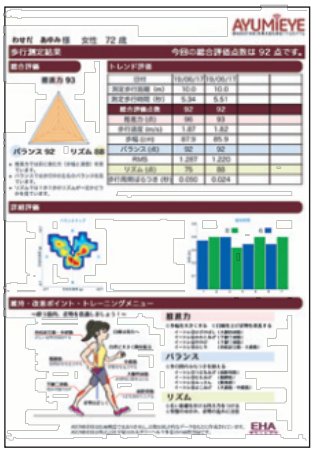
利用者側
・運動の意図の明確化
・継続のモチベーションアップ

スタッフ側
・均質な介入促進
・ケアマネ、家族との情報共有

生活機能向上

利用者側
・身体機能向上
・健康寿命延伸

スタッフ側
・施設内転倒予防
・利用者の出席率改善

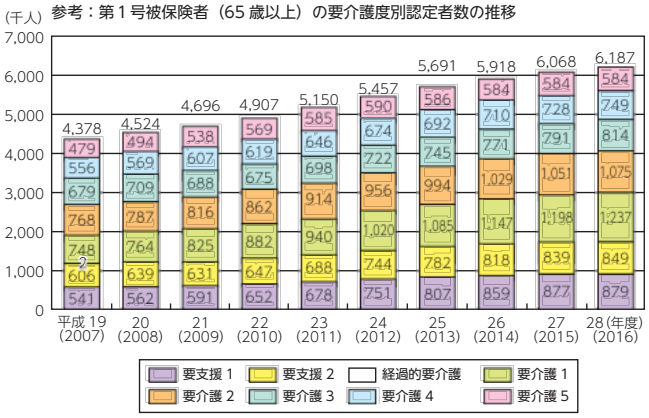


※1　①医療法人社団成仁会長田病院（横浜市港南区）、②社会福祉法人啓生会機能特化型デイサービス アーブル・ヴェール（三浦市）、③社会医療法人三思会介護老人保健施設さつきの里あつぎ（厚木市）、④医療法人社団柏信会介護老人保健施設グルーンハウス逗子（逗子市）、⑤社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス介護老人保健施設アゼリア（海老名市）、⑥医療法人社団葵会介護老人保健施設葵の園・川崎（川崎市）、⑦社会福祉法人三浦市社会福祉協議会（三浦市）
※2　3 軸加速度センサーモジュールと iOS アプリを用いて歩行時の加速度データに基づき歩行機能を「推進力」「バランス」「リズム」の 3 点から分析するデバイス。測定時間は約 10 秒、簡単操作・即時解析・安全実施。

解決すべき社会課題

「高齢者の自立度向上（転倒予防技術の開発）」
介護保険制度が施行された 2000 年当時、約900 万人だった 75 歳以上の高齢者（後期高齢者）はその後増加の一途をたどり、2012 年には 1,500万人を突破、いわゆる団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年には 3,657 万人に達すると見込まれます。こうした中、高齢者が可能な限り長く自立して暮らし、年齢を問わず積極的に社会参加できる、また介護現場の人手不足にも適切に対応可能な、エビデンスに基づいた「自立支援」「介護予防」の仕組みの構築と普及が喫緊の課題となっています。

参考：第 1 号被保険者（65 歳以上）の要介護度別認定者数の推移



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」
（注）平成 22（2010）年度は東日本大震災の影響により、報告が困難であった福島県の 5 町 1 村（広野町、楢葉町、富岡町、川内村、双葉町、新地町）を除いて集計した値

出典：内閣「平成 28 年版高齢社会白書」

事業の提供価値

実証事業参加者への提供価値：従来に比べて圧倒的に短時間で測定ができるため、運動時間が増え、計測時の待ち時間が短くて疲れない、運動の成果が数値や点数で分かりやすく確認できるなど、利用者の満足度が向上し、機能訓練の継続率アップや転倒予防などの生活機能改善の効果が期待できます。

実証フィールドへの提供価値：測定が簡単にでき、時間も短縮、経験則に加えエビデンスに基づく判断ができ、利用者・スタッフ・家族等への説明も容易なことから、人手不足が深刻な介護現場において、スタッフの負担軽減につながり、サービスの質・量ともに向上が期待できます。

Voice

東海大学 健康学部 健康マネジメント学科 講師
博士（スポーツ科学）
岡本 武志様

アカデミア

応用研究のフィールドとして期待しています。

私は、運動不足による筋肉の萎縮について研究をしてきました。現在、医療や福祉の現場で加齢に伴う筋萎縮、いわゆるサルコペニアが問題になっています。適切な運動や栄養摂取により予防や改善につながるため、早期発見が重要なポイントです。サルコペニアの診断基準の中には歩行スピードの測定があります。「AYUMI EYE」で解析可能な“歩行”という共通項によりつながった早稲田エルダリーヘルス事業団さんとのご縁は、これまで基礎研究に携わってきた私の研究領域をヒトへの応用研究にまで幅を拡げていく上で貴重な場となっています。アカデミアの立場から言うと、地域の健康課題に尽力する機会を与えてくださり感謝しています。今回の実証事業で使用している「AYUMI EYE」は、従来製品に比べてコンパクトで安価です。また利用者、指導者にとってフィードバックが短時間ででき、分かりやすいという特徴があります。利用者のリハビリ意欲を促す上で有効なツールになると思いますし、ひいては広い意味で健康づくりに貢献していくことを期待しています。

社会医療法人社団 三思会
介護老人保健施設さつきの里
あつぎ　リハビリテーション科
理学療法士　**前田 玲様**

フィールド

とても簡単に活用できる、その点が現場にとって魅力です。

今回の実証事業で「AYUMI EYE」を使用しての実感は「とても簡単に活用できる」です。これは現場でとても重要なことで、当施設では他にもリハビリ用のデバイスなどの実証実験を依頼されることも多いのですが、装着や準備に時間や手間がかかるものは、現場では使いづらいです。その点「AYUMI EYE」は、利用者の腰に付けて 8 メートルほど歩いてもらうだけで、速度や歩幅、バランスなどのデータを測定でき、精度も高い、持ち運びも便利でいいことずくめです。定量的にデータを得ることで、より適切な歩行機能の維持、改善、向上のためのプログラムを利用者に提供できます。また利用者にとって「点数」が出てデータを可視化できることは、モチベーションにもつながります。高齢者の転倒予防において「AYUMI EYE」は利用者に様々な場所、シーンでの活用が可能なのではないでしょうか。

事業者からの声

アルケア株式会社
ロコモ事業部長　関　良一

当社が、リビングラボに参画させていただいた時期は、産官学連携でのデータ収集が一区切りし社会実装を検討している時期でした。ビジネスとして展開していくには、ステークホルダーとの目的共有・従来実施されている施策との整合・テストベットした時の採算性の検討など、課題山積でした。その時に神奈川県のリビングラボの公募があり、良い機会と捉え応募しました。実際にリビングラボを活用してみると、神奈川県の方が市町村との打合せに企画段階から同席してくださり、市町村のご担当者に「民間事業者の押し売り」では無いことをご理解いただき、地域住民の参加や公的施設の使用に対して、アドバイスや地域住民向けの広報方法を教えてくださり成果につなげることができました。神奈川県内の５地域の経験から、他県での展開方法の知見が蓄積され、全国の様々な地域で展開することができました。今後は、「神奈川生まれ、神奈川育ち」を念頭に置きながら、リビングラボの経験を活かして、全国でヘルスケアサービスをさらに展開し、健康寿命延伸に貢献していきたいと考えています。

RIZAP 株式会社
ヘルスケアラボユニット ユニット長　松崎　主税

当社が、自治体や企業に健康増進プログラムを提供していく中で、「そもそも健康に興味のない“無関心層”にどう参加してもらうか」「サービス提供に必要な原資をどう確保するか」という２つの大きな課題が存在します。今回の実証事業を通じて、サッカーなどの趣味を楽しむ市民・県民（消費者）の健康増進意識及び保険加入意識を販促機会として整備する有用性を把握することで、将来的にこのセグメントにおけるビジネスモデルが成立するかどうかを検証し、民間資金を活用しつつ地域社会の課題解決につなげるような取組みの可能性を探ることができました。既存のコミュニティであっても健康増進プログラムを通じて、より強固なコミュニティ形成をもたらすことができるという副次的な効果も実感することができました。

エーテンラボ株式会社
代表取締役 CEO　長坂　剛

神奈川県とタッグを組ませていただくことになったのは、リビングラボのコンセプトが、県民の意識・行動変容を促進し、新たな社会システムの構築と健康課題の解決にあり、非常に共感したからです。現在社会問題となっている糖尿病は、医師の指導に加え、本人の病気に対する意識が変わらないと良い生活習慣が続きません。弊社の開発するアプリ「みんチャレ」は、自ら行動を起こして運動や食事の改善を続けることができますが、ユーザーアンケートでしかその効果を計れませんでした。今回、多くの実証フィールドをご紹介いただき、説明会や報告会を通じて糖尿病患者の方々から実際に「みんチャレ」を利用した生の声を聞くことができました。その結果、伸ばしていく点や改善すべき点などが明らかになり、アプリの方向性が定まってきたと感じています。神奈川県の手厚いサポートのおかげで非常に進めやすく、大変助かりました。今後、社会実装を目指していくため、引き続きご一緒できれば幸いです。

カゴメ株式会社
執行役員 / 健康事業部長兼女性活躍推進担当　曽根　智子

当社は、「トマトの会社から、野菜の会社に」という長期ビジョンを掲げ、「ニッポンの野菜不足をゼロにする」活動を実施しています。その中で私たち健康事業部は、健康経営を推進する企業や、住民の健康増進を推進する自治体を顧客として、野菜摂取に関する国民の意識や行動を変えることを目的としたサービスを提供することで、この活動を推進しています。現在、健康経営をサポートするようなサービスについては、市場が拡大していますが顧客が安心してサービスを利用できるような制度整備が進んでいないのが現状です。そのため、適正なサービスを顧客が安心して選択できるよう、提供する側の事業者がサービスの効果や品質についてエビデンスを提示する必要があると考えています。今回、私たちは本実証事業を通じて提供するサービスの効果を検証する活動を実施し、サービスの効果を客観的に判断できるエビデンスを取得できたほか、サービスの改善についても有益な示唆を得ることができました。今後も、事業者として、顧客が安心して、有益なサービスを選択できるような情報を提示するために、リビングラボのような制度を有効活用していきたいと考えています。

株式会社 早稲田エルダリーヘルス事業団
代表取締役社長　筒井　祐智

人間にとって歩行は生活に欠かせない動作であり、シニアライフにおいて歩行を評価することは非常に大切です。AYUMI EYE は、専門家に頼らず客観的で高度な評価が簡単に行うことができ、機能訓練の中に導入することでその仕組みをアップデートさせ新たな介護予防サービスを展開できると考えてきました。そこで、「実際に介護現場などに導入することで利用者やスタッフにどのような変化がもたらされるか」を明らかにし、より積極的な普及に取り組みたいと考え、リビングラボを活用することとしました。リビングラボでは，介護施設等の実証フィールドに神奈川県からお声掛けいただくことで，ユーザーとなるスタッフや利用者の協力がスムーズに得られ，大変ありがたく思いました。まずは「介護の中の歩行解析」でしっかりとエビデンスを蓄積し、その成果を使い子どもや女性，スポーツ現場など、歩行解析そのものがもつ可能性を最大限活かした事業展開を目指していきたいと考えています。

編　集　後　記

東海大学医学部客員教授　芝口　隆重

私は、2008年から東海大学大学院医学研究科ライフケアセンター（伊勢原市）に「産学連携プロジェクト・健康医科学研究」を立ち上げ、国民の自立的健康マネジメントの実現に向けた産業基盤の構築・整備等に取り組んできました。

東海大学は、2015年に神奈川県と包括連携協定を締結し、未病改善の取組みを推進することとしており、私も、2017- 年度から神奈川ME-BYOリビングラボの仕組みづくりや運営のお手伝いをさせていただいています。

社会、コミュニティ、個人のニーズにあった商品・サービスをつくるには実証事業が欠かせません。多くの企業は人を対象とした臨床研究の知見や経験がなく、令和元年度からリビングラボを側面支援するため民間の臨床研究支援サービスをはじめました。

本レポートでは5つの実証例を紹介していますが、未病関連商品・サービスの社会実装には、経済的価値に加えて社会的価値を同時に実現するビジネスモデルが有効です。

今後も、ヘルスケア分野で新市場創出を目指す企業の皆さんを県と一緒に支援していきたいと考えています。

■実証事業を実施した実証フィールド

市町村（地域）	実証事業者（重点領域・共創メンバー）
平塚市	株式会社クリエイトエス・ディー（生活習慣・自治会） 株式会社エーテンラボ（生活習慣・公的サービス）
鎌倉市※1	株式会社サイキンソー（生活習慣・自治会） 株式会社エクサウィザーズ（生活機能・公的サービス）
藤沢市※1	株式会社エーテンラボ（生活習慣・公的サービス）
茅ヶ崎市※1	アルケア株式会社（生活機能・コミュニティ活動）
逗子市※1	株式会社エーテンラボ（生活習慣・公的サービス）
秦野市※1	株式会社疲労科学研究所（メンタルヘルス・ストレス・公的サービス） 株式会社エーテンラボ（生活習慣・個人）
伊勢原市※1	アルケア株式会社（生活機能・公的サービス） 株式会社疲労科学研究所（メンタルヘルス・ストレス・公的サービス） 株式会社マピオン（生活習慣・個人）
寒川町	株式会社エーテンラボ（生活習慣・個人）
大磯町※1	アルケア株式会社（生活機能・コミュニティ活動） 株式会社疲労科学研究所（メンタルヘルス・ストレス・公的サービス）

※1　エイジフレンドリーシティ　https://www.pref.kanagawa.jp/docs/mv4/globalstrategy/age-friendlycity.html

健康経営推進企業（職域）	実証事業者（重点領域）
川本工業株式会社（横浜市中区）※2	カゴメ株式会社（生活習慣）
富士通コワーコ株式会社（横浜市港北区）	株式会社エーテンラボ（生活習慣）
富士通ゼネラル株式会社（川崎市高津区）※2	カゴメ株式会社（生活習慣）
古河電気工業株式会社横浜事業所（横浜市西区）	株式会社FiNC（生活習慣） カゴメ株式会社（生活習慣）
古河電気工業株式会社平塚事業所（平塚市）	株式会社FiNC（生活習慣） カゴメ株式会社（生活習慣）
公益財団法人横浜YMCA（横浜市中区）※2	カゴメ株式会社（生活習慣）

※2　CHO構想推進事業所　https://www.pref.kanagawa.jp/docs/mv4/cnt/f532717/index.html

医療機関、介護施設等（その他）	実証事業者（重点領域）
医療法人社団葵会　AOI国際病院（川崎市川崎区）	株式会社エーテンラボ（生活習慣）
医療法人社団葵会　介護老人保健施設葵の園・川崎（川崎市川崎区）	株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団（生活機能）
社会福祉法人伸こう福祉会　介護付有料老人ホームクロスハート湘南台二番館（藤沢市）	社会福祉法人伸こう福祉会（生活機能、メンタルヘルス・ストレス等）
社会福祉法人伸こう福祉会　介護付有料老人ホームクロスハート湘南台・藤沢（藤沢市）	社会福祉法人伸こう福祉会（生活機能、メンタルヘルス・ストレス等）
社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス　介護老人保健施設アゼリア（海老名市）	株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団（生活機能）
社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス　カラダテラス海老名（海老名市）	株式会社エーテンラボ（生活習慣）
医療法人社団成仁会　長田病院（横浜市港南区）	株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団（生活機能）
セコムフォート株式会社　介護付有料老人ホームコンフォートガーデンあざみ野（横浜市青葉区）	富士通株式会社（生活習慣）
社会福祉法人三浦市社会福祉協議会（三浦市）	アルケア株式会社（生活機能） 株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団（生活機能）
株式会社湘南ベルマーレ（平塚市）	株式会社RIZAP（生活習慣）
社会福祉法人啓生会　機能訓練特化型デイサービスアーブル・ヴェール（三浦市）	株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団（生活機能）
社会医療法人社団三思会　介護老人保健施設さつきの里あつぎ（厚木市）	株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団（生活機能）
医療法人社団柏信会　介護老人保健施設グリーンハウス逗子（逗子市）	株式会社早稲田エルダリーヘルス事業団（生活機能）

神奈川県 政策局 SDGs 推進課 SDGs 推進グループ
神奈川県横浜市中区日本大通１　電話：045-285-0909（直通）

次世代社会システムの
構築に向けた取組み